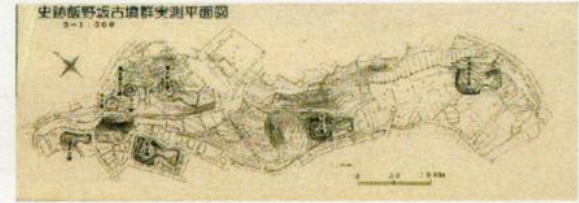


# 名取の丘陵上に 分布する古墳

I-17



I-17-①-b

# 名取の大型古墳

I-16

古墳時代のはじめ頃につくられた大型古墳は、平野を見おろす山頂(せうとう)や丘陵上(けいりやうじやう)につくられることが多かったようです。名取においても、雷神山古墳(全長168m)、薬師堂古墳(全長65m)、宮山古墳(全長60m)、観音塚古墳(全長60m)、山居古墳(全長60m)などの大型古墳が、さらに年代が少し下るが名取大塚山古墳(全長90m)も丘陵上に分布(ぶんぷ)しています。このことから、この地に大型古墳を築(きず)くような大きい権力をもった豪族(ごうぞく)がいたことをうかがい知ることができます。

I-16

## ①飯野坂古墳群

飯野坂古墳群は、名取ニュータウンがある丘陵上の北東部に前方後方墳5基と方墳2基が一群(いっぐん)となって分布している古墳群で、名取平野を治(さ)めた豪族たちの墓です。

この古墳群は、前方後方墳が南東側から薬師堂(やくしだう)古墳、宮山(みややま)古墳、山居(やまい)古墳、山居北(やまいきた)古墳が一列に並んでおり、山居古墳の東側には、観音塚(くわんおんづか)古墳と観音塚北一(くわんおんづかきたいち)号墳、観音塚北二(くわんおんづかきたに)号墳があります。観音塚北一・二号墳は方墳で、それ以外(い)のものすべてが前方後方墳です。これらの古墳がつくられた時期は、古墳のあいだで年代幅(ねんだいばく)があるものの4世紀前半から5世紀初め頃と推定(すいてい)されています。また、薬師堂古墳からは、壺形埴輪(かぶり)の破片が出土しています。

このように前方後方墳と方墳が密集(みっしゅう)してつくられる古墳群は、めずらしく学術的(がくじゆてき)にとっても価値(かち)の高い重要な遺跡(いせき)です。

I-17-①-a



I-17-①-c



I-17-①-d



I-17-①-e



I-17-①-f



I-17-①-g



I-17-①-h



I-17-①-i



I-17-①-j